

ギアチェック・インスペクション

- ・受験者は下記のギアを持参する。
 - ・劣化、損傷が激しいものは試験に使用できない。
 - ・ギアの数が必要な場合や、忘れた場合は試験を受けることができないので注意して準備すること。
 - ・持参したギアの強度や保管、点検のポイントなどについて説明を求める。口頭により回答を要する。
 - ・使用可能ギアはレクリエーションで認められているものであれば、下記以外の物も使用することができる。また下記数量以上に使用することもできる。(いずれも申告が必要) ただし個々の試験科目で規定されている場合は制限する。
- ツリークライミングサドル ヘルメット MRS ロープ 2 本(120ft 以上) トリプルアクション以上のオートロックカラビナ 4 枚 フリクションセーバー 2 本(うちリングセーバーは 1 本以上) フットループ ランヤード エイト環
 スローライン 2 セット以上 レスキュー時のブレイクスコントロール用具(プーリー、プルージックループ、デ이지ーチェーン等) ツリーポート ポート延長用ロープ 30ft 程度(クライミング兼用不可) ポート延長用カラビナ 2 枚以上(クライミングと兼用しないことが望ましい)

スローライン

- ・スローラインのスロー回数は練習2投まで、本番5投までとする。ハングスローに限る(射出器具を使用しない)
- ・練習スローは試験の対象とするが、アンカーに入っても得点にはならず、練習終了後に回収する。練習は行わなくても良い。
- ・概ね手の届く高さでコントロールされている場合は、申告すればスローバッグを投げても作業とみなし、スローの回数には含まない。[例:内包の除去作業時に、試験官に申告してスローバッグを股の向こう側へ投げる。]
- ・あらかじめ設定されたアンカーポイント2ヶ所にスローラインをセットする。それ以外はポイントにならない。
- ・同じアンカーポイントには複数回設置しても得点は1回分のみとする。
- ・2ヶ所のアンカーポイントは、Hi12~14m(9点)とLow8~10m(6点)とする。2投目以降は1投毎に減点される。
- ・MRS をセッティングできる状態にしなければ得点とはならない。枝が内包した状態では認められない。
セッティング可能な状態になっていれば、その部分以外のスローラインは他の枝にかかった状態でも良い。
- ・アンカーポイントのマーキングより内側(マーク上を含む)であれば、股の最深部でなくても良い。スローライン操作のみであれば修正を行うことができる。
- ・スローラインのポイントが認められた1ヶ所を、フリクションセーバーを使用して MRS が使用可能な状態にロープセットを行った場合は加点する。(5点) 使用するアンカーは2ヶ所のうちどちらでも良く、ロープ両端を同時に地面に接地させるのみで良い。
- ・スローバッグ、スローライン、ロープ、フリクションセーバー等、すべて使用数に制限なし。但し、同時に使用できるスローラインは2本までとする。(地上にあるラインは本数に含めない)
- ・制限時間は、試験官の開始合図から 10 分までがスロー可能時間とし、20 分までにスローラインとロープのセッティングを行う。スロー可能時間の終了は試験官より合図がある。
- ・樹上のギア類の回収は上記 20 分に含めないが、試験開始から 25 分以内に樹上にギア類が無い状態にする。樹上にギア類が残っている場合は失格とする。
- ・1スローでスローライン操作により、複数アンカーを取ってもよい。(1スローとカウントする)
- ・規定のアンカーポイントに直接入らなかった場合でも、スローライン操作により修正・セッティングを行うことができる。
- ・スローラインセット・ロープセットは、試験官の確認を受けることによりポイントとなる。
- ・スローコールが無い場合およびスローバッグのみが飛翔した場合は失格とする。

アドバンスドツリークライミングスキル

- ・あらかじめ設置されているスローラインを使用して、MRS ロープセッティング、クライミング、樹上にて2nd アンカースロー & MRS セッティング、2nd MRS へ切り替え、ベル鳴らし2カ所を行う。ベル鳴らしの過程でリムウォークも審査する。クライミングダウン、クリーンアップまでのすべてを行う。
- ・ベルを鳴らす順番を指定する場合がある。(指定の有無は、試験日のインスペクションにて指示する)
- ・1st MRS 用ロープと 2nd MRS 用ロープを別に用意すること。
- ・1st MRS アンカーはリングセーバーとする。1st MRS はベル鳴らし等トランズバースには使用しない。
- ・2nd アンカーポイントは、指定されている場合と指定されていない場合があり、指定された場合はそのアンカーポイントしか認められない。(指定の有無は当日のインスペクションにて指示する)
- ・樹上で MRS セッティング後、その MRS が地上までクライミングダウン可能か確認する必要がある。
- ・樹上での作業時(スロー・ロープセッティング・ベル鳴らし等)は、ランヤードで安全を確保し体の安定を保つ。
- ・1st MRS ⇄ 2nd MRS の切り替え時に、ランヤード等のバックアップがない場合は失格とする。
- ・ロープの傾きが 45 度を超える(45 度より水平に近づく)と、試験官の判断により、1 回目は警告(-10 点)、2 回目は失格となる。
- ・基本制限時間は試験官の開始合図から、男性 30 分、女性 40 分とし、クリーンアップ完了までを行う。
ただし環境により制限時間の変更あり。またクリーンアップは、あらかじめ設置されていたスローライン以外のものが、樹上に残っていない状況であれば完了と認められる。
- ・制限時間の 5 分超過までは続行可能(-5 点)。この間にすべての内容を行う必要があり、行えなかった場合は失格となる。
- ・ロープ撤収時のロープ落下は減点となる。
- ・使用するギア数は制限しない。ただしレクリエーションで認められたものに限る。

ツリーポート

- ・あらかじめセットされた2つの MRS を使用する。
- ・MRS のチェックやノットの調整後に、試験官の合図から試験開始とする。
- ・指定の樹木間で、高さ(3~5m)の位置に 1 人でツリーポートセッティングを行う。
- ・試験開始後であれば、あらかじめセットされたロープ以外のロープをセッティングしても良い。
- ・ポートの固定は、一方は付属のストラップ、もう一方はロープによる延長とする。
- ・ロープ延長の方法は、MRS2 に記載の方法とする。
(MRS2 で指導している方法で行う。ダブルフィギュアエイト固定は用いない)
- ・試験時間は試験官の開始合図から 30 分とし、時間内にセッティング完了を受験者から試験官に報告する。
(完了報告は樹上でも可) 迅速な作業には加点をする。
- ・ストラップの固定はターンバックルの中を通した後、ハーフヒッチして末端処理を施す。
- ・ツリーポートは、水平になるようセッティングする。
- ・ツリーポートは試乗して、弛み等を確認することが望ましい。

ツリーレスキュー

- ・樹上約 5m に要救助者が居り、あらかじめセットされたスローラインを使用し、MRS によりハグレスキュー(自分と相手のブレイクスをコントロールして降りる方法)にて救助を行う。
- ・制限時間は、試験官の開始合図から 15 分とし、救助した要救助者のカラビナを外して、完了報告までとする。
(要救助者を地上で搬送できる状態にする。) 安全かつ 10 分以内の救助完了は加点する(+2 点)。
- ・要救助者の疾病受傷状況に沿った救助活動を行う。
- ・レスキュー開始時には、樹木や周囲の安全確認を行う。(試験官にその行動が判る様に告知する)

(ツリーレスキュー つづき)

- ・受験者はビレイの他、必要な事柄を周囲に指示する必要がある。
- ・受験者がアシスタント役に指示をして行ってもらえる行為はビレイのみ。(要救助者の引き寄せなどはできない)
- ・ビレイの操作は詳細に指示をする必要がある。(いつ、どちらをビレイするか・速さ・作業位置など)
- ・受験者はクライミング時のセーフティーノットを作らなくても良い(迅速性の重視)。ただし救助作業中は必要。
- ・アシスタント役は1名とする。
- ・要救助者の安全確保に努める。(特に頭部)
- ・急激な降下は減点。墜落に至るような危険行為や、毎秒 50cm以上の急激な降下は失格とする。
(アシスタント役が、指示通り作業できなかった場合はこの限りではない。)

【全体注意事項】

- ・各試験項目において、樹木と樹木周辺の安全確認を必ず実施すること。
 - ・器具愛護と事故防止に努める。(ギアの踏みつけ等は故意でなくても減点。カラビナのゲートロックの確認は必須)
 - ・各試験項目の配点は次の通り。それぞれが合格点数に達していない場合は不合格とする。
スローライン 20 点(合格点 12 点)・ツリーポート 20 点(合格点 12 点)・ツリーレスキュー 20 点(合格点 12 点)・アドバンスド
ツリークライミングスキル 40 点(合格点 24 点)
 - ・参加者同士での技術相談禁止、他の参加者の批判禁止。
 - ・試験官に抗議をした場合は失格。
 - ・ギア他、物を落下させた場合は失格。ただし、インジャリーフリー※ の物はその限りではない。
 - ・試験開始後は終了まで試験フィールドを出ることはできない。(トイレ、忘れ物を取りに出るなどはNG)
 - ・試験中の質問は認めない。ただし、時間はいつでも聞くことができる。(試験官は経過時間を返答する)
 - ・レクリエーションツリークライミングで認められたギア・技術(MRS1~3)のみで行う。
 - ・制限時間内に完了しない場合は失格。ただし、スローラインはギアの回収が完了していれば失格とならず、制限時間内の
点数が認められる。
 - ・必要と認められる場合は、試験官の判断で時計を止め試験を一時中断する場合がある。
 - ・失格となる場合であっても、試験を続行する場合がある。
 - ・オフロープは試験中止かつ失格とする。(ロープにテンションが掛かっておらず、1m 以上の落下が予想される場合も含む)
 - ・ロープの傾きが 45 度を越えた(45 度より水平に近づいた)場合、試験官の判断により、1 回目は警告(-10 点)、2 回目で
失格となる。警告の場合は安全な状態まで戻ってやり直す。警告の前に自己申告し、やり直せば警告とならない場合もある。
 - ・樹木の損傷は、折れた箇所径 10mm 未満減点なし、10~25mm は-2 点/本 減点、25mm 以上は失格とする。
 - ・必要なコールが、適切なタイミングでない場合や試験官に聞こえない場合(必ず試験官のコールバックを受ける)は減点と
する。ただし、スローコールがない場合は失格とする。
 - ・動作は確実に試験官に伝える。試験官のコールバックによりポイントとなる。
 - ・樹上で何らかの作業をする時は、セーフティーノットならびにランヤードを使用する。
 - ・MRS のカラビナ接続部はダブルフィッシャーマンズループとする。
- ※インジャリーフリー:ケガの可能性が極めて低いもの
(スローライン・手袋・ハンカチ・セーフティグラス等。ペンはインジャリーフリーではない)



TREE CLIMBING® JAPAN

ツリークライミング®ジャパン

〒480-1201 愛知県瀬戸市定光寺町 323-4

Email info@treeclimbingjapan.org/ TEL: 0561-86-8080 FAX: 0561-86-8580